

第3回交流学習会（報告） その1

第3回交流学習会（報告）

2007年12月26日（水）～28日（金）沖縄愛楽園にて

■ 学習会（一部）

報告：A

*ハンセン病を授業でこう扱った

1. 神奈川県立高校.....社会科「現代社会・人権学習」「地理A」

川崎・横浜市北部の高校勤務が多く、多磨全生園には1時間程度で行ける利点を生かして、日曜日の課外活動として国立ハンセン病資料館（旧高松宮ハンセン病資料館）を見学し、園内を案内したこともあり、かつてはその感想文で大学AO入試に合格した生徒も2名いる。

2. A大学・教職課程「人文地理学」

「地域からの断絶 ハンセン病市民学会と長島愛生園」

地理学の一端として、人間存在の基盤である「『地域』からの断絶」というテーマ設定にしている。多磨全生園を軸に展開する場合は、国本（李）衛さんの著作（毎日新聞刊）の一部を印刷し、NHKのドキュメントなどを上映する。

◇《人文地理学II》講義

(1)現代世界と地理II / 講義の方針、正距方位とメルカトル（時差）

(2)災害と人間 / 阪神大震災12年 検証 震災列島 / N23

(3)地域からの断絶 / ハンセン病市民学会と長島愛生園 人間回復の橋、心の架け橋となれ

(4)環境問題II-1 / 世界遺産（屋久島と石見銀山）伝説の深き森を守れ・屋久島

(5)環境問題II-2 / ゴミと産廃・香川豊島 ゴミ50万トンに挑んだやせ蛙

(6)アジアと日本I-1 / 韓国と在日コリアン イムジン河・私を変えたうた

(7)アメリカの生活と文化 / アメリカを人々の暮らしから見る リトルロックの闘い

(8)アジアと日本II-2 / ITと多文化のインド インド、人材大国の挑戦

(9)東アフリカに学ぶ / ウガンダ・ケニアにみるHIVと開発 自作VTR

(10)脱原発と日本 / チェルノブイリから東海村へ 被曝治療83日間の記録・東海村臨界事故

(11)沖縄と現代 / 「集団自決」と戦後沖縄 沖縄RBC「集団自決・特別番組」

現在は2001年の熊本地裁判決記事、2005年の「ハンセン病検証会議最終報告書」の紹介記事（毎日新聞）、長島愛生園、多磨全生園の地図などを使っている。映像は長島愛生園自治会作成のDVD『人間回復の橋、心の架け橋となれ』がよくまとまっているので利用している。

A大学から多磨全生園も近く、ここでも学生に呼びかけ国立ハンセン病資料館を見学し園内を案内する企画が続けている。国本（李）衛さんに話を伺うこともあった。

かつて経済学部学生だったUさんが他大学博士課程まで進学し、ハンセン病療養所の教育について研究が続けている。

【学生の感想：07年度】

A) 熊本地裁判決の時には、中学生になるかならないかという位の年齢だったが、日本ではまだ南アフリカのapartheidみたいな隔離政策をしていたのかと驚いたのを覚えている。宮城県に住んでいたのも、東北新生園の存在もある程度知っていたが、ハンセン病がどのような病気であるかは、そのときに初めて知った。また多くの人がハンセン病に偏見をもったとも知った。ハンセン病の例に限ったことではないのだが、偏見だとか誤解というのは本当に恐ろしいものだと思う。ハンセン病患者も、本来なら我々と同じように生活できていたはずであって、国家の責任は大きいと思う。熊本地裁判決で謝罪したり賠償金を払ったりしてはいるようだが、今でも偏見は根強いものであるらしい。患者の人たちだけでなく、国家をあげて偏見・差別をなくしていかなければならないだろうなと考えている。

B) 多くの人がそうであつたらうと同様に私もハンセン病のことをあまり知りませんでした。TV等ニュースでちょこちょこ目にしている程度で、「とにかくかわいそうなめにあつた人々」という認識でしかありませんでした。昔はこの病気が不治のものだった。こうした病気への恐怖が差別や偏見につながってしまったと思うと、何ともいえない。一番ショックだったのは多くの胎児が殺されていたことです。近代においてそんな事が行われていたなんて...とんでもない人権侵害です。本当に人として生きることをやめさせていたんだなあと思う。それと同時に、そこまでして避けたいほど恐かつたんだろうとエゴを感じた。

C) 私もハンセン病という名前は聞いたことはあつたけど詳しくはあまり知らず、ハンセン病にかかった人たちが受けてきた扱いを知って衝撃を受けた。自分の家族にまで偏見や差別的な目で見られていたり、自分の身の回りのもの全てに、みんなの前で消毒されている姿を見られたりして、患者の気持ちを何も考えていないように思えた。家族とも引き離され、療養所に入ったらもう家族とも会えなくなってしまうなんて考えられなかった。人間回復の橋として、療養所のある島が“架け橋”でつながって、島と本土が一体となって差別偏見がなくなったり、行き来が簡単になり交流できるようになったので、ハンセン病に対する理解が深まっているようだった。ハンセン病患者がもう辛い思いをしないように、ハンセン病についてしっかり理解をして差別をなくしていかなければいけないと思った。全ての人を尊重していける社会になってほしい。

D) 今回の授業で、ハンセン病の歴史を学び“無知”ということは、人間を恐ろしい行動へ招いてしまうのだなあと感じました。私も今日の授業で学ぶまで、ハンセン病という病名は知っていましたが、それについての深い理解はありませんでした。ハンセン病は“不治の病”でも“怖い病気”でもないのに強制隔離をしたり、新しい命までも奪ってしまうという事実があつたことは本当に悲しいことです。このような悲劇を繰り返さないためにも、私たちは常に正しい情報を知り、正しい知識を学ばなければいけないと強く思いました。

E) 恥ずかしながら、今日初めて「ハンセン病」という言葉を聞きました。ハンセン病は不治の病でも怖い病気でもないのに、国は患者を強制隔離したということだが、どう考えてもおかしいと思う。なぜ隔離の必要がないと分かつたあとに、完治した患者も含め療養所に押し込められたか。そして過酷な労働を課し、生まれた子どもの命までも奪うなんて、あんたらは本当に人間かと疑う。原告の元患者らの勝訴は当然だと思う。国は患者や元患者の自由を奪い、人権を侵害したのだから、彼らの社会復帰をしっかり支援する必要があると思う。

F) ハンセン病が国全体で差別的に扱われていたことを初めて知った。特に病気の専門家が隔離を進めていたことは、当時は特効薬があるにもかかわらず、何をやっているのかと疑問に思った。また法律が廃止された今でも、差別や偏見が根強く残っていることに驚いた。過去のたくさんの出来事が現在に大きく影響していることもあるが、国が自らの違法性を認めた上でこの問題に対して消極的であることが大きな原因ではないだろうか？ 患者の自然減を待つなど本当に罪を認めているのだろうか？ 長島愛生園が地域の人々と交流し、徐々に地域に受け入れられていることはすばらしいことだと思った。今後はまず地域に受け入れられるように多方面から支援し、差別・偏見をなくしていくことが必要だと思った。人間回復の橋がかかるまでは長くかかつたが、回復するまでは短くあつてほしいと思う。

G) ハンセン病を自分は名前では知っていたが、その病がどんなものなのか、また裁判をする理由ははっきりいって、全く知らなかつた。しかし今日、ハンセン病に少しかであるが理解が深まつた。第一印象は先生も言っていたが、ナチスのユダヤ人大量殺害と同様なのではないかということだ。しかし、ハンセン病に対する世論の考えはそのように考えていないと思う。きっとそれは、表面の方しか情報を知らないからだと思う。ニュースなどはただ「違憲」や「宿泊拒否」という内容しか語らない。そこまで踏み込んだのなら、いつでもハンセン病の残酷さや悲しさまですべて伝えるべきである。それはHIVや沖縄の「集団自決」でも同様である。うわべだけの情報を流すだけなら、そんなものは被害者のことを何も伝えていない。今後はメディアを含めて、みんなが情報に対しても考えなければならぬと今回感じた。